

山形県高校生ライフデザイン

1-1 若者を対象としたライフデザインセミナーの開催

背景 ○ 平成25年度の取組み

- 晩婚化、未婚化などライフスタイルの多様化
- 少子化の加速、不妊の増加

概要

- 結婚や子育てを含めた10年後、20年後の自らの将来について考える機会を持ち、若いときからの結婚観・家庭観の醸成を図るライフデザインセミナーを開催

ライフデザインセミナーの内容

講演会

【演題】「自らのライフデザインを考える」
【講師】白河桃子氏
(少子化ジャーナリスト、相模女子大客員教授)

【主な講演内容】

- 30代初めの未婚女性は3人に1人、未婚男性は半分。意識して結婚活動をしないと結婚できない。
- 年齢が高くなるほど出産率は低くなり、30代前半頃までに最初の子を生んだ方がよいと言われている。
- 男性も40歳以上になると授かりにくくなると言われている。
- 子どもがほしいと思ったら、意志をもって授かること。
- 結婚したい人は仕事を持つこと。夫婦2人で働けば、世帯の収入が上がる。女性はしっかり仕事を持ち、男性はイクメンになる。

高校における取組み

- 総合学科を設置している高校を中心として、家庭科や「産業社会と人間」等の授業の中でライフプランを作成
- 社会人や卒業生の講話、インターンシップやボランティア活動などを実施

平成25年度実績（生徒達の感想）

県立高校4校で実施 県立米沢商業高校 県立天童高校
受講者 約620名 県立新庄南高校 県立鶴岡中央高校

「これまで自分の結婚や子育てなどについて、あまり考えたことはなかったが、将来を考える良い機会となった。」

「第1子は30代前半くらいまでは生んだ方が良いと知り驚いた。」

「結婚を含め、何事にも受身でいるのではなく、自分から意識的に活動することが大切だとわかった。」

ワークショップ

- 個人ワーク：「家族の形は年齢とともに変化し、親も年をとっていく」ことをワークシート記入で見える化
- グループワーク：「もし結婚して子どもができれば」「パートナーに何を望むか」をグループ内でディスカッショングループで話し合われた内容を発表

平成25年度 4校からスタート
講師：白河桃子

平成26年度 8校に実施校拡大
講師：県内のワーキングマザーを養成
テキスト作成、講師養成協力

平成27年度 高校、大学、専門学校などにも拡大

1-3 若者を対象としたライフデザインセミナーの開催

○ 平成27年度の取組み

- ★高校生を対象としたライフデザインセミナー
➢実施高校を拡大（県立学校8校⇒市立、私立を含め12校）
- ★専門学校生を対象としたライフデザインセミナー【新規】
- ★大学生を対象としたライフデザインセミナー（1校⇒2校）

平成26年度事業の効果

- セミナー受講前のアンケートでは、妊娠適齢期を知らない生徒がほとんどであり、出産できる年齢も、40歳を超えても出産できると回答した生徒が4割もいるなど、誤った認識を持っていた。セミナー実施により妊娠・出産の正しい知識を伝えることができた。

高校生ライフデザインセミナー

① 県外外部講師（白河氏）によるセミナーの実施（モデル2校）

- 県立鷹巣江高校
- 新庄南高校
- 県内講師、高校教諭の脱講

② 県内講師によるセミナーの実施（10校）

- 県立高校 6校
- 専修学校 2校
- 米沢商業高校 ●奥井高校 ●鶴岡北高校
- 私立高校 3校
- 東海大学山形高校 ●鶴岡東高校 ●九里学園
- ※ 1校は未定

③ 県内講師養成のための意見交換会

- 参加者 県外外部講師、県内講師、高校教諭（家庭科）
- 次年度以降の事業の方向性についての意見交換

今年度教育委員会において、家庭科の指導教材にライフデザインに関する内容を盛り込み、年度末に県内各高校に配布の予定。

専門学校生ライフデザインセミナー

就職を目前に控え、結婚や出産を具体的にイメージできる専門学校生、大学生は、セミナーの内容をより自分のこととして捉えることが可能であり、事業を拡大した。

高校生ライフデザインセミナーと同じ内容で実施
専門学校 3校

- 山形調理師専門学校 ●山形歯科専門学校
- 山形病院附属看護学校

大学生ライフデザインセミナー

対象 山形大学、東北文科大学2校で実施予定

内容 大学の特性に合わせ、興味を持ってもらえる内容を大学と協働で企画し、実施する。

仕事をしつつ女性が子どもを持ちたいと思った時に妊娠適齢期を過ぎていたという事をなくするため、就職する前にライフプランを考える機会となる本セミナーは大変重要であり、継続して実施する必要がある

1-1 若者を対象としたライフデザインセミナーの開催

◎ 平成25年度の取組み

背景

- 晩婚化、未婚化などライフスタイルの多様化
- 少子化の加速、不妊の増加

概要

- 結婚や子育てを含めた10年後、20年後の自らの将来について考える機会を持ち、若いときからの結婚観・家庭観の醸成を図るライフデザインセミナーを開催

充実・連携

高校における取組み

- 総合学科を設置している高校を中心として、家庭科や「産業社会と人間」等の授業の中でライフプランを作成
- 社会人や卒業生の講話、インターンシップやボランティア活動などを実施

平成25年度実績（生徒達の感想）

県立高校4校で実施
受講者 約620名

・ 県立米沢商業高校 ・ 県立天童高校
・ 県立新庄南高校 ・ 県立鶴岡中央高校

ライフデザインセミナーの内容

白河氏は、国立成育医療研究センター齊藤英和氏と共に「仕事、結婚、出産、学生のためのライフプランニング講座」を東京近郊の大学・高校で出張授業として実施

- ・ これまで自分の結婚や子育てなどについて、あまり考えたことはなかったが、将来を考える良い機会となった。
- ・ 第1子は30代前半くらいまでには生んだ方が良いと知り驚いた。
- ・ 結婚を含め、何事にも受身でいるのではなく、自分から意識的に活動することが大切だとわかった。

講演会

【演題】「自らのライフデザインを考える」

【講師】白河桃子氏

(少子化ジャーナリスト、相模女子大客員教授)

【主な講演内容】

- ・ 30代初めの未婚女性は3人に1人、未婚男性は半分。意識して結婚活動をしないと結婚できない。
- ・ 年齢が高くなるほど出産率は低くなり、30代前半頃までに最初の子を生んだ方がよいと言われている。男性も40歳以上になると授かりにくくなると言われている。子どもがほしいと思ったら、意志をもって授かること。
- ・ 結婚したい人は仕事を持つこと。夫婦2人で働けば、世帯の収入が上がる。女性はしっかり仕事を持ち、男性はイクメンになる。



ワークショップ

- ・ 個人ワーク：「家族の形は年齢とともに変化し、親も年をとっていく」ことをワークシート記入で見える化
- ・ グループワーク：「もし結婚して子どもができれば」「パートナーに何を望むか」をグループ内でディスカッション→グループで話し合われた内容を発表



山形県高校生ライフデザイン 教育効果の定性調査（平成24年）

山形西高等学校											
ライフデザインセミナー前											
	将来結婚は		将来仕事に		将来希望する職種は		将来子どもは		将来子育ては		
	したい	したくない	就く	就きたくない	ある	わからない	希望する	希望しない	仕事は辞め ないでほしい	仕事を辞め 自分でほしい	
1組	39	2	41	0	23	18	38	3	32	9	
2組	39	1	40	0	23	17	37	3	34	6	
3組	36	4	40	0	32	8	33	7	32	8	
4組	36	4	40	0	23	17	34	6	26	14	
5組	36	4	40	0	21	19	35	5	12	28	
6組	38	2	40	0	25	15	37	3	29	11	
合計	224	17	241	0	147	94	214	27	165	76	
%	92.9	7.1	100.0	0.0	61.0	39.0	88.8	11.2	68.5	31.5	
ライフデザインセミナー後											
	将来結婚は		将来仕事に		将来希望する職種は		将来子どもは		将来子育ては		
	したい	したくない	就く	就きたくない	ある	わからない	希望する	希望しない	仕事は辞め ないでほしい	仕事を辞め 自分でほしい	
1組	40	1	41	0	26	15	38	3	37	4	
2組	40	0	40	0	22	18	39	1	37	3	
3組	38	2	40	0	30	10	34	6	37	4	
4組	39	1	40	0	21	19	36	4	34	6	
5組	36	4	40	0	18	22	35	5	35	5	
6組	39	1	40	0	23	17	39	1	33	7	
合計	232	9	241	0	140	101	221	20	213	29	
%	96.3	3.7	100.0	0.0	58.1	41.9	91.7	8.3	88.0	12.0	

山形県高校生ライフデザイン 教育効果の定性調査(平成27年)

事前アンケート

性別	男性	104
	女性	76
将来の仕事	就きたい	176
	就きたくない	1
	分からない	3
結婚	したい	133
	したくない	5
	分からない	42
子ども	持ちたい	128
	持ちたくない	67
	分からない	44
将来の仕事	やめないで働く	141
	辞めて自分で子育て	7
	わからない	32
妊娠適齢期	知っている	15
	知らない	164
女性の妊娠可能期間	30歳くらい	13
	35歳くらい	44
	40歳くらいまで	67
	45歳くらいまで	35
	50歳くらいまで	12
	いつまでも大丈夫	7

事後アンケート

性別	男性	103
	女性	73
将来の仕事	就きたい	175
	就きたくない	0
	分からない	1
結婚	したい	147
	したくない	9
	分からない	20
子ども	持ちたい	140
	持ちたくない	12
	分からない	24
将来の仕事	やめないで働く	157
	辞めて自分で子育て	3
	わからない	16
妊娠適齢期	前から知っていた	24
	初めて知った	152
山形で暮らしたいか	山形で暮らしたい	49
	ずっと県外で暮らす	20
	いったん県外戻る	51
	わからない	56

情報提供事業の効果

山形県 高校生の声

「第一子を30代前半までに産んだ方がいいと知って驚いた」

「まずはしっかり就活して仕事を持つことが大事だと思った。将来共働きするために両立できる就職先を見つけたい」

「将来は就職して山形を出て行こうと思っていたが、山形は三世帯同居も多く、子育て環境を考えると地元もいいと思える」

「結婚すると不自由になると思っていたが支え合って家庭を築くのもいいと思った」(男子)

大学生の声

「ずっと生理不順で悩んでいたが、講座をきっかけに受診。前向きになれた」(二年後に出産。両立しながら子育て中)

「妊娠について知らなかった」「両立しやすい会社に就職したい」

社会人の声

「女性として働くことを忘れていた」

「30歳過ぎて結婚出産で会社を辞めることを漠然と考えていたが、働き続けようと思った」

経営層の声

「女性活躍、ワークライフバランスの必要性がわかった」

情報提供事業でわかったこと

- 性教育、キャリア教育、ライフデザイン教育はあるが、一体となったものは少ない
- 仕事、結婚、出産についての切れ目ない情報提供は相乗効果がある。そもそも知らない子が多い。
- 女性については確実に「妊娠適齢期」の情報提供は効果がある。妊娠の時期が2.3歳早まる(齊藤先生より)
- 「結婚、出産」は個人の選択という前提を最初に共有することが大事。家庭が複雑な思春期の生徒も少なくない。特に高校生では結婚に拒否反応を示す生徒もいる。LGBTの生徒への配慮も必要。
- 高校生の場合、ワークショップとの併用が効果的。
- 外部の講師は効果的。
- 男女ともに妊娠適齢期については、ほとんど教育がなされていない。

意識醸成と情報提供へのご提案

教育

- ・小学生からさまざまな段階で、女子には「キャリア」教育、男子には「家事・育児に参画する」教育を。
- ・さまざまな段階で「妊娠」についての男女両方向けた専門家による情報提供

企業

- ・動かさないのは「妊娠適齢期」のみ。仕事の都合に妊娠時期を合わせるのは限界。いつ出産しても(大学生時でも)働くことに支障のない人事管理

政府

- ・女性が産むためには「両立可能な安定した仕事」が必要。
特に非正規女性が出産子育てで仕事を失わない対策を
- ・共働き夫婦を標準世帯にした政策